

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽		
所在地	愛知県半田市神田町2-30-2		
自己評価作成日	平成21年11月23日	評価結果市町村受理日	平成22年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市加木屋町内堀136番地の2
訪問調査日	平成21年12月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一般住宅を改装した施設を生かすため、家庭的な雰囲気の中で利用者が生活できるように支援をしている。地域との結び付けを積極的に行い、行事・運営推進会議・町内会への加入を通じて、とけ込めるようにしている。レクリエーションも午前・午後行い、利用者のADLの維持に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

郊外の竹林や田畑に囲まれた清閑な住宅地に隣接し、平成15年に民家を増改築してグループホームとして開設した。家庭的雰囲気の中で、利用者と職員、利用者同士が相互に支え合いながら、和やかにゆったりと過ごしている。運営推進会議体制が整い、良好な関係のもとで運営され、会議で出された意見や要望、情報等をサービスの改善に具体的に活かす努力がされている。職員はQCサークル活動を通して、課題の改善を図り、利用者のサービス向上に繋げ実績をあげている。恵まれた環境の中で、地域とのかかわりや戸外での生活支援が少ないと感じる。戸外で過ごす開放感や地域との馴染みを体感できるような工夫を願いたい。また、H22年度に新築移転の予定と伺う。新施設に向けて、理念の確立、地域との連携、門扉施錠等を十分に検討され、充実したサービスに繋げることを期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の「地域と自然に接しながらの生活の支援」の理念をグループホームに置き換えて、地域住民との交流も含めて実践している。	法人の理念、グループホームの目標が玄関に掲示されている。	地域密着型サービスの意義や役割を考え、「ホーム独自の理念」を作り上げ、職員間で話し合いながら具体的なケアについて共有化し、日々実践していくことを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、今年度は、隣組長として活動している。地域への催しものにも利用者と共に参加している。また、防災訓練にも参加していただいている。	町内会に加入し、地域との関係づくりをしている。また公民館の文化祭に作品の出展をしたり、区民運動会の見学、祭り、保育園の園庭開放に参加している。施設内の防火訓練に、近隣の参加協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談等にて、認知症の方や御家族の相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二月に一回、運営推進会議を開催して、そこで出された意見を反映させている。	家族の他、区長、民生委員、市職員、法人役員、管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催し、記録もある。年間計画の進捗状況、行事報告、要望などの情報交換や意見具申を基にサービス改善や向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、連絡を取り合ったり、アドバイスをうけている。	月1回は行政に出向き、ホームの実情やケアサービスの取組み等の報告をしたり、アドバイスをもらい協力関係の構築に努めている。市主催の在宅ケア推進会議に出席し、他事業者との交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて、職員の意識付けを図り、行っている。	利用者の無断外出事故の対応策を全員で検討した上で、家族の承諾や運営推進会議を通して、門の施錠や、センサーの取り付けを行っている。身体拘束をしないケアは徹底され、内部研修を通じて職員の意識の共通化を図っている。	施錠やセンサーの常態化に留まらず、センサーの取り付け位置や、感知した時の職員による声かけ、確認方法などを充分検討し、施錠しない対策を望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、職員の意識付けを図り、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、市主催の交流会に参加し、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、または、介護保険制度の改正時に、説明を行い、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に関しては、二月に一回、運営推進会議を開催して、そこで出された意見を反映させている。利用者については、各担当職員にニーズの収集をし、実現に努力している。	外部者が参加している運営推進会議で、家族の意見、要望等を表せる機会があり、運営に反映されている。利用者の要望は職員が日々の会話の中から聞き出している。何でも言いやすい雰囲気心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングを通じて、意見を反映している。	ミーティングや勉強会を通して職員の意見を反映している。運営や利用者の情報交換、決定等に関して、日頃から職員の意見を聞いたりする機会を多く持ち、職員のモチベーションは高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回、人事考課表を用いて、職員個々の状況を把握し、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度事業計画にも、目標として掲げ実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、個人記録表に記載し、各職員に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、個人記録表に記載し、各職員に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族の家庭環境を考慮し、他事業所と連絡を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な雰囲気や大切に、洗濯干し・食事の準備や後片付けなどを、共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加・ご協力をお願いして、家族と、利用者の絆が断たれないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望により、柔軟に外出できる体制を維持している。	利用者を支えてきた馴染みの把握はしているが、ホームとしての積極的な対応はしていない。家族からの要望には可能な限り応える体制を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、食事場所や、レクリエーションの場所・内容を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の、様子を尋ねたりして、相談を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間を、本人の要望により変更する等して対応している。	フェースシートやアセスメント記録などで利用者意向を把握し、共通理解している。また食堂兼リビングに日中集まって過ごす習慣があり、かかわりや会話、表情から把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人記録表や、その後の家族からの情報にて、実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌などで、状況を把握し、異常があれば、申し送るなどして、観察・対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、カンファレンスを行って、職員同士の意見を集約し、介護計画に反映している。	本人、家族、関係者の話し合いの基に計画書を作成して実施し、3か月毎に見直しを行っている。また、毎月1回のカンファレンスを行い、利用者の意向や変化を把握し、状況に即した計画を作成し、実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌などで、状況を把握し、異常があれば、申し送るなどして、観察・対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	水分・食事等、要望に応じて本人に支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園への訪問、地域の催し物に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望をかかりつけ医に往診時に報告し、指示を受けている。	本人と家族の同意と納得のもとに、事業所の協力医療機関の医師をかかりつけの医師としている。本人が従来のかかりつけ医の受診を希望する場合は、家族の同意を得て、家族が同行して受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、連絡がとれる体制を敷き、訪問時に指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、病院へ訪問し、病院職員と今後についての話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「事前指定書」へ重度化した場合に備え、必要時に相談をしている。	入所時に重度化した場合や終末期の対応について「事前指定書」を記入していただき、家族と方針を共有している。管理者は終末期まで看取りたいとの抱負を抱いている。	入所時に「事前指定書」で意思確認はしてあるが、本人や家族の思いは時を経たり、状況の変化に応じて変わることがをふまえ、状況の変化のたびに関係者全員で話し合いを繰り返し、方針を確認することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災を想定した避難訓練を定期的に行っている。	マニュアルの策定はないが、消防署の指導のもと年2回の避難訓練を実施している。自設の防災訓練には地域住民の参加も得ている。避難路、夜間対応体制、避難者の優先順位等の整備が未着手である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなどに注意し、尊厳を損なわないようにしている。	日常的な何気ない会話や対応にも、年長者としての敬意をはらい、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の内容等、本人に必要時に声かけし、対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間の変更等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の家族と、連絡関係を維持し、本人の意向が、かなえられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時を主に準備や、毎食後の片付け等を一緒におこなっている。	利用者の意向を取入れた献立を実施し、利用者の意欲やできることを把握し、盛り付けや片付け等を職員と行っている。茶椀、箸、湯呑は個別のものを使用し、職員と一緒に食事をして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表等で摂取量を把握している。家族の要望にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所等で、口腔清拭を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、援助を行っている。	昼夜を問わず、極カトイレで排泄をするように個々の排泄パターンに応じた援助をしている。夜間巡視が必要な利用者は、3回巡視し、ポーター、おむつ、歩行援助など利用者の機能に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族の要望に応じ、排泄コントロールをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前入浴を変更の希望を受けた場合、その要望に応じている。	週3回午前中入浴を基本としているが本人の希望により午後の対応も行っている。また入浴時の羞恥心に対して抵抗感がないように更衣場で着脱できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の行動などを観察し、必要時に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の管理や、服薬チェック表にて、誤薬が発生しないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前・午後のレクリエーションを通じて、喜びのある生活を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の訴えや、様子などで、戸外へ出て過ごせるように援助をしている。	10日に1度の割合で近くのゴルフ場に、みんなで散歩に行ったり、外気浴を兼ねて庭でおやつを食べたり、お花見、紅葉など季節感を味わう外出を実施している。また、家族の協力を得て外泊等の支援も行っている。	太陽の光を浴び、外気に触れることは健康増進、気分転換に大きな効果が期待できるので、地域の特性や自然環境を活かし、利用者が日常的に外出できるような、個々の支援を工夫することを望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	申し出があった場合、日常生活物品を購入する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の申し出にて、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般住宅を改装した施設の特徴を損なわないようにしている。	民家を改装しているので、温かい雰囲気のある共用空間があり、自宅の延長として過ごせるように配慮されている。廊下やトイレ、風呂場は手すりが取り付けられているが、民家故の段差や食堂兼居間のスペース、空気の循環等に工夫を要する。	利用者が日々集う台所兼リビングに面する所に、車椅子対応のトイレがある。目線や羞恥を回避できるような間仕切りや、車椅子の輪の清拭方法など衛生予防管理の配慮も願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机を二つに分けたり、食堂近くに座れる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを居室へ持ち込み、自宅の雰囲気を得られるようにしている。	使い慣れたタンスや三面鏡、机、ぬいぐるみ、寝具、写真など馴染みの物が置かれ、自作の手作りの作品、書画がかけられたり、その人らしく過ごせる居室空間となるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を設置し、転倒防止に努め、自立歩行が維持出来るようにしている。		